

音楽活動の基礎的な能力を培う指導の工夫

～読譜の能力を高める指導を通して（第5学年）～

宜野湾市立嘉数小学校教諭 棚原 聖子

目 次

テーマ設定の理由	41
めざす児童像	41
研究目標	41
研究仮説	41
研究の全体構想図	42
研究内容	
1 音楽活動の基礎的な能力について	43
2 読譜指導とは	44
3 読譜の能力を高めるには	44
4 教材・教具の効果的活用	49
検証授業	
1 題材名	51
2 題材の目標	51
3 題材について	51
4 児童観	51
5 指導観	51
6 教材について	51
7 題材の評価規準	52
8 指導計画	52
9 本時の学習	55
10 検証授業研究会	57
仮説の検証	
1 具体仮説1の検証	58
2 具体仮説2の検証	59
研究の成果と今後の課題	
1 研究の成果	60
2 今後の課題	60
3 終わりに	60

< 音楽 >

音楽活動の基礎的な能力を培う指導の工夫

～ 読譜の能力を高める指導を通して（第5学年）～

宜野湾市立嘉数小学校教諭 棚原 聖子

テーマ設定の理由

小学校学習指導要領音楽科の目標に「表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」とある。

音楽活動の基礎的な能力とは、表現や鑑賞の活動に必要な音楽的な諸能力のことを指している。この能力は、児童が楽しく音楽とかかわる活動を通して、経験的に身に付けていくものであり、生涯にわたって音楽を愛好するための素地となる能力につながると考える。

高学年の目標に「音の重なりや和声の響きに重点を置いた活動を通して、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする」と示されている。高学年では音の重なりや和声の響き、楽曲を特徴付けている要素を感じ取って音楽を聴いたり、自分で楽譜を見たりして演奏するために必要な読譜の能力を身に付けておくことが大切である。

本校の5年生は、歌唱活動に関心が高く、特に合唱の表現活動に積極的である。一方、器楽活動では、リコーダーの演奏技能や読譜の能力に差があり、消極的になっている児童も少なくない。

これまでの授業を振り返ってみると、表現活動では音の重なりや和声の響き合いに重点を置いた表現を工夫する活動が中心となり、表現活動の基礎となる楽譜の知識や視唱、視奏などの指導が不十分であった。また、音符や休符、記号などの学習は、繰り返し指導を行なうこととなっているが、年間を通して継続的な指導を行うことができず、楽譜を読み取り楽譜を見て演奏する力を身に付けさせることができなかった。

本研究では、音楽活動の基礎的な能力の一つである「音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏することができる」に視点を置き、授業の導入や途中で「チャレンジタイム」を設けて、楽譜と音の関連を意識させた読譜指導を継続的に繰り返し行い、読譜に必要な知識を身に付けさせ、音楽表現に活用する力を育てていきたい。

さらに、楽譜が苦手な児童も音楽活動に楽しく参加できるような児童の実態に即した教材・教具を活用した学習指導の工夫を図り、自分の力で楽譜を見て演奏することができれば、自ら音楽のよさや美しさを感じ取って表現する喜びを味わうことができ、音楽活動の基礎的な能力も培われるであろうと考え、本テーマを設定した。

めざす児童像

楽譜に関心を持ち、主体的、創造的に音楽活動をすることができる児童
楽譜に慣れ親しみ、楽譜と音の関連を意識して視唱や視奏ができる児童
曲の特徴を感じ取り、友だちと協力して表現の工夫をすることができる児童

研究目標

チャレンジタイムでの継続的な読譜指導や、児童の実態に即した教材・教具を効果的に活用することにより、読譜の能力を高め、音楽活動の基礎的な能力を培う学習指導の工夫を図る。

研究仮説

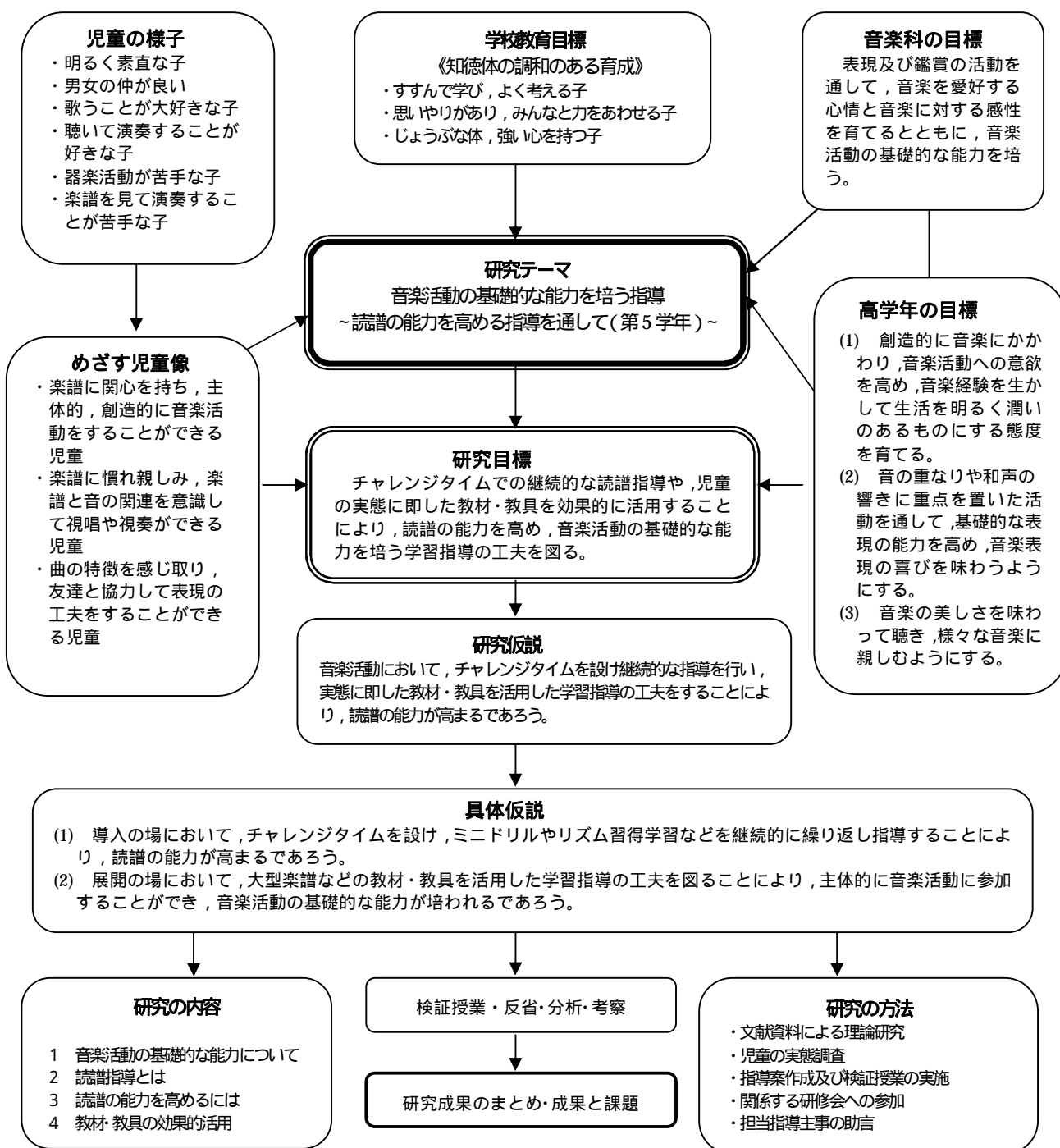
1 基本仮説

音楽活動において、チャレンジタイムを設け継続的な読譜指導を行い、児童の実態に即した教材・教具を活用した学習指導の工夫を図ることにより、読譜の能力が高まり音楽活動の基礎的な能力が培われるであろう。

2 具体仮説

- (1) 導入の場において、チャレンジタイムを設け、ミニドリルやリズム習得学習などを継続的に繰り返し指導することにより、読譜の能力が高まるであろう。
- (2) 展開の場において、大型楽譜などの教材・教具を活用した学習指導の工夫を図ることにより、主体的に音楽活動に参加することができ、音楽活動の基礎的な能力が培われるであろう。

研究の構想図



研究内容

1 音楽活動の基礎的な能力について

(1) 音楽活動の基礎的な能力とは

音楽活動の基礎的な能力とは、音楽の表現や鑑賞の活動に、必要となる音楽的な諸能力のことを意味している。具体的には、児童が感じたことや心に描いた思いを、自ら声や楽器で表現して伝えたり、演奏のよさや音楽の美しさを感じ取りながら、主体的に進んで音楽を聴いたりする能力のことを指している。(小学校学習指導要領 解説 音楽編 1999)

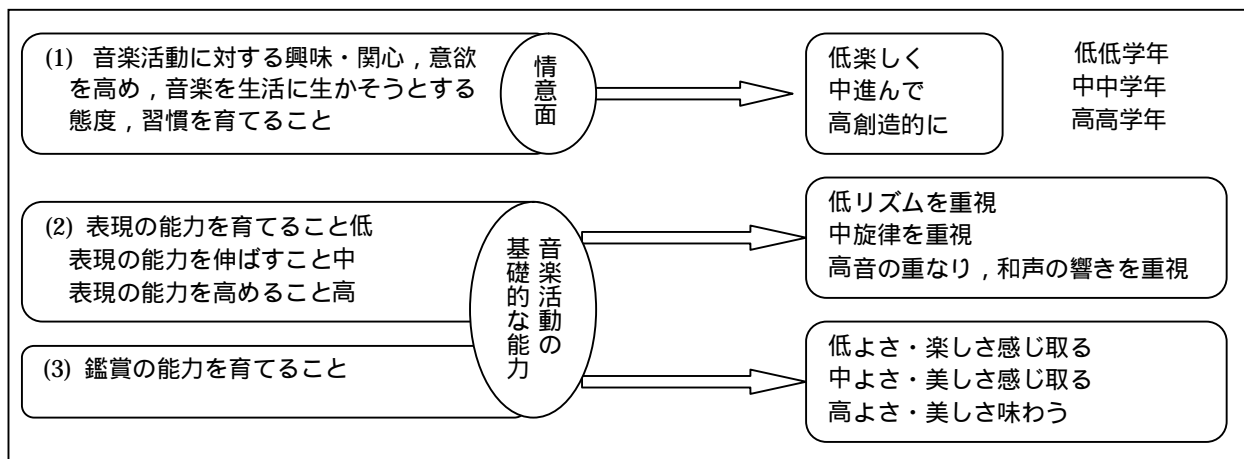


図1 音楽活動の基礎的な能力と各学年の目標との関連

音楽活動の基礎的な能力を各学年の目標との関連で見ると、表現・鑑賞の音楽活動で身に付ける能力が「音楽活動の基礎的な能力」となる。表現領域では、低学年がリズム・中学年が旋律・高学年が音の重なりや和声の響きを重点に、各学年で培われた音楽的な諸能力を基盤に、友だちと共に楽しく音楽とかわかる活動を通して、経験的に身に付けていくことが大切である。(図1)

川池(2003)は、「音楽活動の基礎的な能力」として、次の5項目をあげている。

- 音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏する能力【表現】(「楽譜を見たり」は第3学年以上)
- 曲想や音楽を特徴づけている要素を感じ取って、工夫して表現する能力【表現】
- 歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付ける能力【表現】
- 音楽をつくって表現する能力【表現】
- 音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取って聴く能力【鑑賞】

(2) 音楽活動の基礎的な能力を培うには

音楽活動の基礎的な能力を培うためには、情意面と能力面のバランスのとれた学習を展開することが重要である。また、音楽活動の基礎的な能力は、もともと子どもたちが潜在的にもっていると考えられ、この能力を学習活動における直接的な音楽体験を通して引き出し、育て、伸ばしていくような学習指導の工夫が求められている。本研究では、「音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏する能力」に視点を置いて、音楽活動の基礎的な能力を培う指導の工夫として以下の5項目をあげる。

- 児童が楽しく参加できる教材教具の活用(「わかる・できる」のための支援)
- 友だちと協力し、共に学び、共に音楽の喜びを分かち合える学習の展開
- 読譜に必要な知識の学習を継続的に行い、表現活動に生かす学習の展開
- 視唱・視奏(指差し階名唱)を多く取り入れ、楽譜と音の流れを意識させる指導
- 音楽学習の環境づくり(学級の雰囲気・教室掲示資料・楽器・MIDI再生器・オーディオ等)

2 読譜指導とは

(1) 小学校における読譜指導とは

読譜の能力とは、楽譜を見て、リズム、音程、記号等、楽譜に書いてあるものを読み取り、歌ったり、演奏したりする（視唱・視奏することを含む）能力のことである。よって、小学校における読譜指導とは、上記に示した能力を身に付けさせるための指導と考える。

小学校学習指導要領音楽科では3学年から、八長調の視唱・視奏を指導することとなっている。楽譜を読むための基盤になる音符や休符、記号などの学習については、児童の学習状況を考慮して、表現及び鑑賞の活動を通して指導することとなっているが、指導する学年の配当が示されていない。

そこで、各学校で各学年の指導内容を明確にし、題材や教材と読譜指導を関連付けた指導計画が必要となる。本研究では、小学校における問題点を探り、小学校で身に付けておく読譜の能力を明確にし、5学年の1年間を通して習得できるよう、年間指導計画を立てる。

(2) 小学校における読譜指導の問題点

児童の実態調査や検証授業から読譜に関する問題点として、次の5つをあげる。

五線と音符の位置との関連を理解していない。

音符の形と長さ（拍）を理解できず、音の長さを認識していない。

楽譜と音を関連づけて、楽譜を追うことができない。（どこを演奏しているかわからない）

階名を書くのに時間がかかりすぎる。

音符など楽譜に関する知識的な学習に興味を示さない児童が多い。

これらの問題点を踏まえて本研究では、児童が自分の力で楽譜を見て演奏することができ、自ら表現活動を楽しむことができるよう、小学校高学年で身に付ける読譜の能力（表1）を設定し、読譜指導を行う。

表1 高学年で身に付ける読譜の能力

音符や休符を理解して階名がすらすらと自分で書くことができる。

リズム唱ができ、実際の長さを認識できる。

くり返し記号やその他の記号など、楽譜に書かれているものを理解する。

各パートの楽譜の見方を理解する。

同じふしや似たふし、リズムの変化、など、楽譜から曲の特徴を見つける。

3 読譜の能力を高めるには

読譜の能力を高めるには、低学年、中学年で培ってきた表現活動を通して、音符や休符、記号などの基礎知識を理解し、読譜の能力を徐々に身に付けていく指導の工夫が大切である。そこで具体的な指導の工夫として次の4つの視点で指導を行う。

継続的に読譜指導を行う場「チャレンジタイム」の設定

題材や教材とリンクさせた読譜指導に関する年間計画の作成

読譜に関する基礎的なドリル「チャレンジドリル」の作成

視唱・視奏及びリコーダーの奏法をねらいとした「今月のリコーダー」の楽譜、音源作成

(1) チャレンジタイムについて

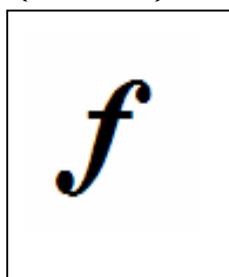
楽譜を読む基盤となる、音符や休符、記号などの学習を授業の導入や途中で、5分程度の「チャレンジタイム」を設けて、継続的に指導をすることにより学習の習慣化を図る。簡単で、だれもがすぐにできる内容で、慣れさせることにより、児童の「楽譜の勉強は難しい」という抵抗感を取り除きた

いと考えている。また、知識的な学習に偏ることがないように、表現活動につなげていける内容をプログラムした。(詳しい内容・指導事項はP46(2)チャレンジタイムの年間計画参照)

- チャレンジドリル・・・小学校で学習する音符や休符，記号 30 項目などのドリル学習
- ペアカード学習・・・音符の名前や長さ，記号の名前や意味をパートナーで覚える
- 階名当て・・・大型カードに書かれた音の上の音，下の音を当てる
- リズム唱・リズム打ち・・・大型リズムカードを使ってリズム習得学習
- 楽しいボディーパーカッション・・・児童が事前に創ったリズムを入れて，楽しくボディーパーカッション
- リコーダーのウォーミングアップ・・・リズム習得学習基礎練習のリズムを変える
- 発声体操・・・スラー・スタッカート，強弱記号を演奏で習得
- 始まり・終わりがド・ラの音探し・・・八長調・イ短調の理解，視唱・視奏

《チャレンジタイムの内容一部紹介》

(カード表)



(カード裏)

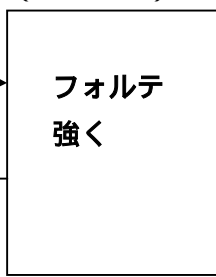


図2 学習カード



大型の音符カードを提示し，この音の上の音？・下の音？とテンポよく，カードをめくっていく。(全員一斉で・一人ずつリレーで)

図3 階名当て

リズムカード No.13

表裏 大型リズムカード・表はリズム読みの書き込みがあり，裏はなしで，児童の実態に合わせて使う

リズムカード No.13

図4 リズム唱・リズム打ち

楽しいボディーパーカッション

歌 たのしい × × たのしい × × ボディー パカッション × × みんな
で × × × みんな で × × × ボディーパーを たのしもう × × ×

ボディーパー A・B・C
1番A・2番B・3番C 4番A・B・Cを重ねて さあ今日は何なりリズムかな？
演奏順序 歌 → A → 歌 → B → 歌 → C 歌 → A+B+C

音楽朝会では，低学年・中学年・高学年とリズムを重ねて楽しむ・チャレンジタイムでは，事前に児童が創った4小節のリズム(ボディーパーカッションで)を楽しむ

図5 楽しいボディーパーカッション

二学期 (20時間)	9月	重なり合う音の美しさを 味わおう (10時間)	「ぼくらの仕事」 「各学級の合唱曲」 「威風堂々」 「威風堂々」 「滝廉太郎の歌曲」	・重なり合い音の美しさを味わって聴いたり、表現したりすることができるようにする。 ・和音の響きを感じ取って、演奏の仕方を工夫することができるようにする。	いろいろな記号(フラット・シャープ) 階名早がき(口の音入) 強弱記号の意味・読み方 いろいろな記号(終止線他) 発声体操(スタッカート・スラー) 威風堂々(9月) グリーン スリープス(10月)	・ ・ ・ ナチュラルの理解 ・ 五線からはみだした音の階名 ・ 強弱記号で表情豊かに ・ 小節・縦線・終止線の理解 ・ スタッカート・スラーを演奏に生かす ・ シ(ペー)をリコーダーで ・ ソ(ギイス)をリコーダーで					
	10月	アジア・日本・沖縄の音楽 に親しもう (4時間)	「アジアの国々の音楽」 「ふるさと春」 「こもりうた」 「ていんさぐぬ花」	・旋律の違いや響きの違いを感じ取りながら、アジア・日本・沖縄の音楽に親しむようにする。 ・ウチナーメロディーをつくり「沖縄の音階に親しむようにする。 ・日本・沖縄の音階の違いがわかるようにする。	ト音記号階名早書きレース カード学習 いろいろな記号(スタッカート・プレス) キリマンジャロ(11月)	・ 階名を早く書く訓練 ・ 音符、記号等を覚える ・ 楽譜から、似たふし、リズムの変化など、楽譜から曲の特徴を見つける ・ タイやスタッカートを生かして					
	11月	アンサンブルを楽しもう (6時間)	「オ・ラリー」 「キリマンジャロ」 「冬げしき」	・曲のまとまりや変化、特徴を感じているいろいろな表現の工夫ができるようにする。 ・音の重なり美しさを味わったり、声や音のバランスに気をつけて表現できるようにする。	リズム遊び・当てっこドリル フィルイン大会 和音の歌・ドリル へ音記号の階名 いつも何度でも(12月)	・ リズムの長さ認識 ・ 創作リズム ・ 和音の特徴・音の広がり ・ 低音の特徴・音の広がり ・ リコーダーでスラーを生かして					
	12月	曲想を感じ取ろう (8時間)	「アイネクライネナハトムジーク」 「秋にさよなら」 「学芸会での合唱奏曲」	・長調・短調の曲の違いが分かるようにする。 ・曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表情豊かに表現したりすることができるようにする。 ・学年全体で心を合わせた演奏の発表ができるようにする。	始まり終わりがド、ラの曲探し 八長調・イ短調の音階 演奏の順序 階名早がき(ト音・へ音選んで) 弦楽器をおぼえよう めぐり違いバラード(1月) めぐり違いサンバ(2月)	・ 長調短調の違いを感じる ・ 長調・短調の音階の理解 ・ 自分で楽譜を見て演奏できる ・ 階名を早く書く訓練 ・ 弦楽器について知る ・ 同じ曲を雰囲気を変えて(曲想の違いを楽しむ)					
三学期 (12時間)	1月	心をこめて演奏しよう (4時間)	「君にあえて」 「大空が迎える朝」 「流れ行く雲をみつめて」 「今日から明日へ」	・これまでの学習を生かし、6年生を心から祝う気持ちをこめて合唱できるようにする。 ・来年度にむけて、最上級生としての自覚をもち、音楽の喜びを下級生に伝えようとする態度を育てる。	チャレンジドリルの制覇 リズム・階名・和音・記号…… (どれだけできたかな?) メヌエット(3月)	・ 階名を早く書く訓練 ・ リズム唱・打ち(長さの認識) ・ 演奏の順序の理解 ・ 多声部の楽譜の見方 ・ 音符、記号等を覚える					
	2月	3月									
<p>チャレンジドリルは、系統立てて、簡単な問題から難易度の高い問題まで、授業の内容や、個人の読譜の能力に応じて使用できるように配慮して作成。 児童がいつでも、繰り返し学習ができるように、プリントして準備。 今月のリコーダー(練習曲)は楽譜を読むための基礎知識やリコーダー演奏上のポイントを書き込んだ楽譜とMIDI音源を使用。</p>											

(3) チャレンジドリルについて

高学年で身に付けておく読譜の能力を基に、基礎的な内容の「チャレンジドリル」を ~ の視点で作成した。

- 5分以内で、「わかった」「できた」「楽しい」と、飽きずに学習できる内容。
- 小学校で習得すべき音符や休符、記号など30項目を繰り返し学習できる内容。
- 3年生から、6年生まで教材に合わせてどの学年でも使える内容。
- 児童が自主的に、いつでも繰り返し学習が音楽室に常時プリントして置く。
- 難易度をつけて個人の読譜の能力に応じて使えるように配慮。
- ドリルの答えは、学習カードや学習ワーク、掲示資料などですぐに確認できる。

《チャレンジドリルの一部紹介》

図6 階名早書きレース

図7 リズム当てっこドリル

表2 チャレンジドリル 1 ~ 50

1	ト音記号を書こう	18	いろいろな記号 読み方	35	かいか名早書きレース
2	全音ぶを書こう	19	いろいろな記号 意味	36	かいか名早書きレース
3	線の上・ミソシレファ	20	いろいろな記号 読み方・意味	37	かいか名早書きレース
4	線と線の間・ファラドミ	21	いろいろな記号 読み方	38	かいか名早書きレース
5	上がる音かいか・下がる音かいか	22	いろいろな記号 意味	39	かいか名早書きレース
6	強弱記号・読み方	23	いろいろな記号 読み方・意味	40	へ音記号かいか名書き
7	強弱記号・意味	24	ひょうし記号・読み方	41	へ音記号かいか名書き
8	へ音記号を書こう	25	ひょうし記号・意味	42	へ音記号かいか名書き
9	いろいろな記号 読み方	26	ひょうし記号・読み方・意味	43	リズム当てっこ
10	いろいろな記号 意味	27	音の呼び方	44	リズム当てっこ
11	いろいろな記号 読み方・意味	28	八長調の音かいか	45	リズム当てっこ
12	いろいろな記号 読み方	29	イ短調の音かいか	46	リズム当てっこ
13	いろいろな記号 意味	30	ト音記号かいか名書き	47	リズム当てっこ
14	いろいろな記号 読み方・意味	31	ト音記号かいか名書き	48	和音をおぼえよう
15	いろいろな記号 読み方	32	ト音記号かいか名書き	49	演奏の順序
16	いろいろな記号 意味	33	ト音記号かいか名書き	50	演奏の順序
17	いろいろな記号 読み方・意味	34	かいか名早書きレース		

(4) 「今月のリコーダー」について

「今月のリコーダー」図8は、階名を書き込んでおく。学習のポイントを演奏の技能に関する事項 楽譜を読むことに関する事項の2項目記入しておく。

楽譜を指で追って指差し階名唱をする。また、練習用の音源も楽譜と同時に作成し、学級でも個人でも練習することができる。

表3 今月のリコーダー

月	曲名	月	曲名
4	アメイジンググレイス	11	クリスマスキャロル
5	風にのって	12	いつも何度でも
6	愛のよろこび	1	めぐり逢い(バラード)
7	荒野のくいしんぼう	2	めぐり逢い(サバ)
9	威風堂々	3	メヌエット
10	グリーンズリーブス		

図8 今月のリコーダー

4 教材・教具の効果的活用

(1) 学習カード

音楽活動に必要と思われる内容をカードにする。音楽教室の学習コーナーに設置して置き、授業の中で使用したり、授業の始まる前に友だちと学習したりする。

(2) 楽譜

階名書き込みの楽譜

階名を書くことが困難な児童が使用できるように準備。最初から与えるのではなく、学習が滞りそうになった場合に使用。

大型楽譜

全員が一つの楽譜に集中するので導入の段階で、曲の演奏順や記号などの確認ができる。譜面台がなくても、パート練習ができる。

(3) 音楽ソフト・MIDI 音源

楽譜とMIDI音源を同時に作成でき、楽譜と音の関連を図る学習で活用。

合唱曲の伴奏をスキャナで取り込み、音源を作成、パート練習や合唱練習に活用。

器楽活動の場での活用。

ア 児童の実態に合わせて、テンポを設定することができる。

イ 各パートの演奏だけを抜き出して演奏できる。(パート練習)

ウ 難しいリズムや音程を聴いて確認できる。

(4) 学習ワークシート

楽譜や記号に関する学習は、難しいと思っている児童が多いので、だれもが楽しく学習したくなるようなワークシートの作成。

オリジナルのワークシートなので、拡大印刷をして、大型のワークシートで説明ができるので、児童が理解しやすい。

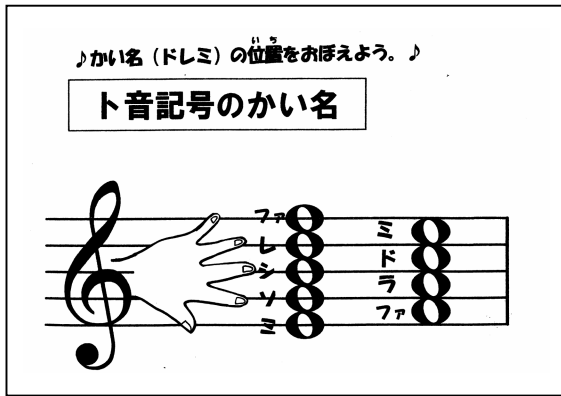


図9 指五線ミソシレファ

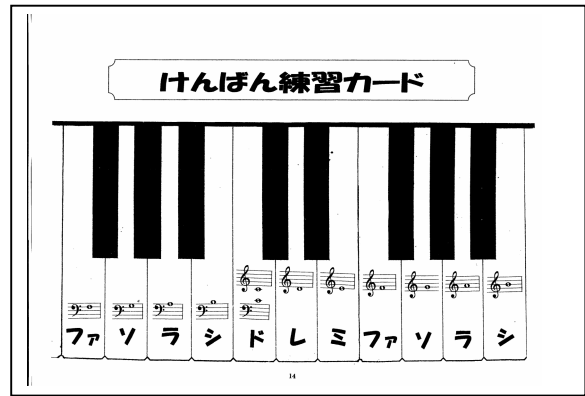


図10 鍵盤練習カード

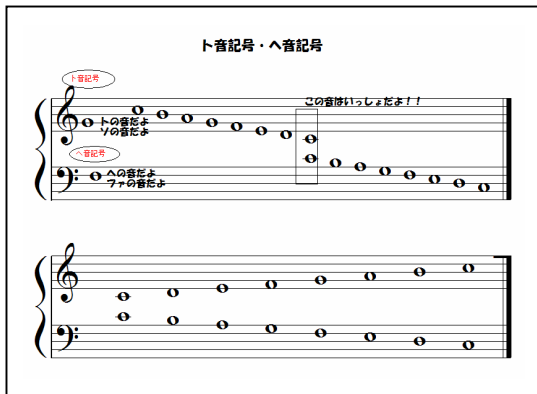


図11 ト音記号とヘ音記号



図12 和音の歌

(5) 掲示用資料

児童の学習意欲を高めるために、教室の環境は大切である。特に掲示資料は、視覚に働き、すぐに見て確認できるため重要である。学習のルール、今月の歌、基礎的な学習の掲示資料を工夫して、いつでも学習ができるようにする。教室掲示を充実させることにより、児童の学習の雰囲気を作る。



図13 リコーダーのよい姿勢

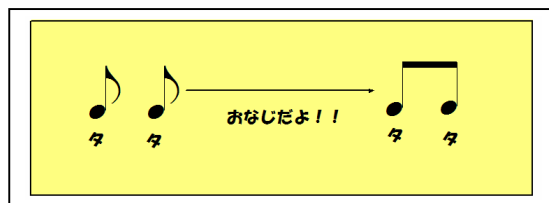


図14 8分音符

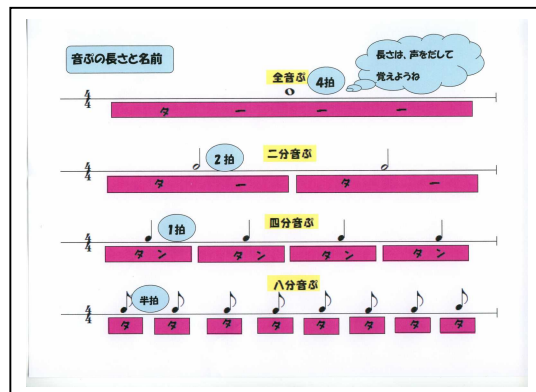


図15 音符の長さとお名前

検証授業

音楽科学習指導案

日時：平成18年12月4日(月)5校時

学級：嘉数小学校5学年1組

男子18名 女子16名 計34名

授業者：棚原 聖子

1 題材名 「楽譜に親しみ、拍の流れや音の重なりを感じ取って表現しよう」

2 題材の目標

(1) 楽譜と音との関連を意識して楽譜を読み、楽譜を理解して演奏する。

(2) 低音や和音の仕組みを理解し、音の重なりを感じ取って演奏する。

(3) 曲の構成を理解し、拍の流れを感じ取って表現する。

3 題材について

この題材では、器楽活動を通して楽譜を見て演奏することに慣れさせ、高学年の指導内容である「八長調及びイ短調の旋律を視唱したり、視奏したりすること」「拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きを感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること」に視点を置き、拍の流れや音の重なり、和声の響きを感じ取って表現する活動をねらいとしている。

4 児童観

本校は学級数が多いため、5年生は今年度から音楽室での学習をスタートしている。5年生の児童は明るく、特に歌唱を好み合唱活動に意欲的である。器楽活動においては、リコーダーを中心とした活動であったためか、あまり積極的ではない。また、器楽における演奏技能の個人差が大きい。また、大半が階名を書き込むことに、かなりの時間を要する。

11月に行った児童の実態調査では、「階名をさっと書ける」が7名、「ゆっくりなら書ける」が16名、「階名カードを見て書ける」が8名、「階名の意味がわからなくて書けない」が3名いた。また、階名は書くことはできてもリズムがわからないという児童が30名もいた。ほとんどの児童は階名を書いた楽譜を見ても、リズムがわからないために範奏を聴かなければ演奏することができない状況である。

今回初めての合奏ということで「いろんな楽器を使って合奏をしたい」という子どもたちの思いが膨らみ器楽合奏への意欲が高まってきている。

5 指導観

指導にあたっては、音譜や休符、記号に関する振り返り学習を行い、楽譜を見て演奏することへの意識付けをすることからスタートし、第1次では、リズム唱や階名唱をさせ、次に旋律・和音・低音と楽器を加え楽譜を見て演奏することに慣れさせて音の重なりを感じ取らせて演奏させたい。

第2次では、初めての合奏活動の学習の仕方を理解させ、合奏譜の見方やパート、楽器の決め方など、スムーズな合奏の学習を進める学習展開の工夫をし、曲を聴いたり楽譜を見たりして構成を理解し、曲想を感じ取って表現を工夫する活動へと展開していきたい。

「チャレンジタイム」は、年間を通して学習プログラムを計画し、ドリル的な学習や、ペア学習、表現活動を通して音の高さやリズムがわかる、など多彩なプログラムを実施する。本題材では器楽活動を通して身に付けて欲しい基礎的な内容に重点を置いて、学習プログラムを取り組むことにした。

6 教材について

(1) 「静かにねむれ」作詞：武井君子 作曲：フォスター

主要三和音で作曲されており、この旋律のほとんどは1小節1和音の形を中心に構成されているので、旋律と和音のかかわりを理解するのに適している。また、旋律が順次進行が多く、和音が基本形で低音が3つの音しかないということもあり、かい名唱に適している。

(2) 「キリマンジャロ」 作曲：ウォルフ シュタイン・ウォルフガング ヤス 編曲：橋本 祥路

この曲は、1～2小節ごとに、リコーダーと鍵盤との掛け合いがあり、楽器の編成や旋律の変化、

繰り返し、スターカットなど、楽譜と音を関連させて聴くことにより、曲の構成を理解する学習に適している。

7 題材の評価規準

	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や 表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱				
器楽				
創作				
鑑賞				
題材の評価 規準	楽譜への関心を持ち、器楽合奏への理解を深め、進んで演奏しようとしている。	和音のひびきや音の重なりを感じ取り、旋律の変化を感じ取って演奏を工夫している。	楽譜と音の関連を理解し、リズム、旋律、和音や音のかさなりを感じ取って演奏している。	楽曲を特徴付けている諸要素と構成を感じ取って聴く。
具体の評価 規準	楽譜への関心を持ち、進んでハ長調、イ短調の視唱に取り組み、読譜を行おうとしている。 器楽活動や楽譜への理解を深め、主体的に学習に参加しようとしている。	和音のひびきや音の重なりを感じ取りながら演奏を工夫している。 各パートの役割を考え、特徴を生かした演奏を工夫している。 各パートの演奏表現の良さを感じ取って聴き、自分の演奏に生かそうと工夫している。	楽譜と音の関連を理解して視唱している。 ヘ音記号や、和音を理解して視唱したり、視奏したりしている。 拍の流れを感じ取って演奏している。 バランスや音の重なりに気をつけて、豊かな響きで演奏している。	曲の構成や曲想の変化を感じ取って聴く。 楽器の響きや音の重なりを感じて聴く。

8 指導計画

教材 { A } 静かにねむれ { B } キリマンジャロ

時	A	B	学習の内容 学習活動	教師の支援 具体的評価 《ア》音楽活動への関心・意欲・態度 《イ》音楽的な感受や表現の工夫 《ウ》表現の技能 《エ》鑑賞の能力	チャレンジタイム (C.T) の内容 準備するもの
第1次 (3時間) 楽譜を理解し、楽譜と音の関連を意識しながら、階名唱やリズム唱ができるようにする。 低音と和音の響きを感じ取って自分で楽譜を見て演奏する。					
1時			器楽の学習において、楽譜の役割や必要性を理解させ、楽譜見て階名唱やリズム唱をする。 教師の説明を聞いて、楽譜の役割や必要性を知る。 音符や休符の振り返り学習をする。 大型楽譜 (部分書き込み) を見てリズム唱をする。 「静かにねむれ」大型楽譜 (部分書き込み) を見て、主旋律のやまびこ階名唱をし、曲の構成や特徴を知る。	楽譜からいろんなことが分かり、自分で楽譜を見て練習することが大切であることを知らせる。 学習のウォーミングアップとして、リズムカードで、リズム唱に続いて音符を確かめながらリズム打ちをさせる。 リズム唱がすぐにできるように、リズム読みを一部書き込んでおく。 楽譜に集中させやまびこ階名唱をしながら、同じメロディーがあることを見つけさせる。	ドレミ当てクイズ 階名ドリル 階名ドリル 静かにねむれ ワグット 静かにねむれ 階名付きワグット 大型楽譜 (リズム書き込み) 大型楽譜 (階名書き込み)

		<p>自分の楽譜や大型楽譜を見て最初から通して階名唱をする。(すぐによめない子は書き込みをする)</p> <p>振り返りカードを書く。</p>	<p>楽譜を見失っている児童の側で楽譜を指差して一緒に歌う。 楽譜と音の関連符と音とリズム唱を一致させることを意識させる。 時間内に書き込めない児童へ、階名がついた楽譜を渡す 観点《ア》 楽譜への関心を持ち、進んで八長調、イ短調の視唱に取り組み 読譜を行おうとしている (観察・ワークシート)</p> <p>観点《ウ》 楽譜と音の関連を理解して視唱している (観察・ワークシート・ドリル)</p>	<p>振り返り ワークシート 音源MIDI</p>
2時		<p>和音のしくみを知り、旋律・和音・低音の演奏を聴いて音の重なりを感じ取る。 大型楽譜 でゆっくり階名唱をする。 パートナーでリコーダーと指差し階名唱を交互にする 楽譜を見て パートリコーダーで演奏する。</p> <p>旋律・低音・和音の音の重なりを意識し、楽譜を指で追ってMIDIを聴く。 へ音譜表の読み方を確認して、パート(へ音譜表)の階名唱をする。 「和音の歌」を歌って、和音のしくみや違いを理解する。 MIDIの和音・低音に合わせて、リコーダーを演奏する。(すぐにできそうな児童がいたら和音・低音パートを演奏させる)</p> <p>振り返りカードを書く</p>	<p>楽譜を追えるように、ペア学習で交互に、リコーダーの演奏と指差し階名唱をさせる。 楽譜を見失ったらパートナーに今どこを演奏しているか聞くように促す 楽譜を見ながら、旋律だけから低音・和音を加えた演奏を聴かせ、音の重なりを意識させる。 お助けカードを使って、音が低いことを確かめて歌わせる お助けカード使って和音の歌を歌い・・・ 7の和音を覚えさせる。 各パートの音を聴きながら、楽譜を見て演奏する。 次時に和音と低音のパートを加えて演奏することを予告し、担当したい子は練習するように呼びかけておく。 観点《ウ》 へ音記号や、和音を理解して視唱したり、視奏したりしている (ワークシート・観察)</p>	<p>リズム遊び リズムドリル</p> <p>リズムカード リズムドリル 大型楽譜 お助けカード 和音の歌楽譜 MIDI音源</p>
3時		<p>音の重なりを感じて演奏する。 パートナーでリコーダーと指差し階名唱を交互にする。 全員でリコーダーを練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> パート鍵盤練習カードを使って階名唱をし、その後楽器を使って練習する。 パートの担当を決める 主旋律・・・リコーダー 和音・・・キーボード 低音・・・バスマスター <p>しっかり楽譜を見て、お互いの演奏を聴きながら合奏練習をする。 まとめの合奏をする。</p> <p>振り返りカードを書く。</p>	<p>楽譜を追えるように、ペア学習で交互に、リコーダーの演奏と指差し階名唱をさせる。 楽譜を見て練習するようにさせる。 8分音符が続く所で、早くならないように、落ち着いて演奏させる。 楽器に移る前にお助けカードを使ってしっかり、階名唱をさせる。階名唱ができた児童から、楽器で練習させる。 と のパートはすぐにできそうな児童を含めて、希望者から3～4人の担当者を決める。</p> <p>各パートの音を聴きながら、旋律・和音・低音と役割を意識して練習させる。 観点《イ》(ワークシート・観察) 和音のひびきや音の重なりを感じ取りながら演奏を工夫している。</p>	<p>和音の歌を歌う 和音の歌 お助けカード MIDI音源</p>
<p>第2次 器楽合奏の学習の進め方を覚える。 曲の構成を理解し、曲想の変化を感じ取って表現を工夫する</p>				

4時		<p>器楽合奏の学習の進め方を知る。 曲の構成や曲想の変化を感じ取って聴く。 「静かにねむれ」を合奏する。 器楽合奏・学習の進め方を知る。</p> <p>合奏譜の見方を知る。 CDを聴いて曲の感じをつかむ 楽譜や聴いて見つけたことや、感じたことを発表する。 MIDIでパートごとの演奏を聴く。 階名の書き込みをする</p> <p>振り返りカードを書く。</p>	<p>前時を思い起こして合奏をさせる。 器楽合奏の学習の進め方をワークシートで確認させる。 演奏順序や記号など理解させる。 リズムや旋律などの変化に気をつけて聴かせる。 楽譜を見失っている児童がいたら、気づかせてあげる。 楽譜を追って聴かせる。 書き込みが終わった子はパートナーの手伝いをする。 観点《ア》観察 器楽活動や楽譜への理解を深め、主体的に学習に参加しようとしている。 観点《エ》発言・ワークシート 曲の構成や曲想の変化を感じ取って聴く。</p>	<p>和音ドリル</p> <p>和音ドリル 合奏学習の進め方ワークシート キリマンジャロワークシート MIDI音源</p>
5時		<p>主旋律をリコーダーで演奏する。 各パートの旋律の担当者を決める。 リコーダーのパートを階名唱する。</p> <p>リコーダーで練習する。</p> <p>全員でパーカッションのリズムを練習する。 各パートの担当者を決める。</p> <p>MIDIに合わせて各パート階名唱をする。</p> <p>楽器で練習する。 振り返りカードを書く。</p>	<p>楽譜を指で追わせ、リズムが難しいところを部分ぬきだして何回も階名唱させる。 スタッカートやタイに気をつけて演奏させる。 パートナーと指差し階名唱を交互にさせる。 事前にチャレンジタイムで練習させておく。 各パートに確実にできる児童を入れる。</p> <p>練習の場所を指示して、各パート向かい合って、楽譜を指差して階名唱させる。 打楽器は基本のリズム唱や、リズム打ちをさせる。 観点《ウ》観察 旋律の変化を感じ取って、演奏の仕方を工夫している。</p>	<p>繰り返し記号</p> <p>繰り返し記号ドリル MIDI音源</p>
6時・本時		<p>拍の流れを感じ取り、パートの特徴を生かして自分のパートの演奏の工夫をする。 全員でMIDIに合わせて、リコーダーのパートを演奏する パートごとに分かれて、MIDIに合わせて階名唱をする。 パート練習をする。 ・楽譜にできなかった部分をチェックする。</p> <p>できてない部分をぬきだして練習する。</p> <p>合奏をする。</p> <p>うまくできなかった部分を見つける。</p> <p>振り返りカードを書く。</p>	<p>パートナーとリコーダーと指差し階名唱を交互に行う。 楽譜と音を関連させて演奏させる。</p> <p>向き合って練習させ、階名唱ができたことを確認して楽器に移る。 リコーダーは大型楽譜を使って練習させる。 打楽器はリズム打ち 練習版 楽器と進める。</p> <p>演奏後、できなかったところはどこか楽譜で確認させ、抜き出して練習させる。 打楽器は基本形ができたならつなぎの工夫をさせる。 リズムに気をつけて縦の線をそろえて演奏するよう促す 観点《イ》観察・発言・振り返りワークシート 各パートの役割を考え特徴を生かした演奏を工夫している。 観点《ウ》観察 拍の流れを感じ取って演奏している。</p>	<p>階名ドリル ボディパーカッション</p> <p>階名ドリル MIDI音源 大型楽譜</p>
7		<p>各パートの演奏の工夫をして、パートごと発表と合奏をする。</p>		<p>強弱記号ドリル</p>

時	<p>合奏をする。 各パートで練習する。</p> <p>各パートの発表を聴く。</p> <p>バランスや音量に気をつけて合奏をする。</p> <p>うまくできなかった部分を出し合い,もう一度手直しの練習をする。 ・パート練習・全体練習</p> <p>振り返りカードを書く。</p>	<p>前時を想定して演奏させる。 うまくできてない箇所や,各パートの聴かせ所をしっかりと練習させる。 よかったと部分を見つけ,自分たちのパートの参考にする。 リズムに気をつけて縦の線をそろえて演奏するよう促す。 手直しの練習はどんな練習が効果的か考えさせ,パートで練習か,合奏で練習したほうがいいのか児童に聴いて決める。 観点《ウ》観察 バランス音の重なりに気をつけて,豊かな響きで演奏している。 観点《イ》観察・ワークシート 各パートの演奏表現の良さを感じ取って聴き,自分の演奏に生かそうと工夫している。</p>	強弱記号ドリル
8時	<p>曲の感じを生かしてまとめの演奏をする。 これまでの演奏をふりかえる。</p> <p>パートの役割や特徴を確認してパート練習をする。 全体でまとめの演奏をする。</p> <p>ビデオ鑑賞をする。</p> <p>感じたことを発表する。</p> <p>振り返りカードを書く。</p>	<p>これまでの活動を振り返って,楽譜で分かったことや,演奏を聴いたときに感じていたことを思い出して,自分たちの演奏に生かされているか考えて,意見を出し合う。課題としたところがうまくできているかチェックをさせる 楽譜を見て,気をつけるところ,パートの聴かせ所を確認して練習させる。 ビデオで撮影をする。</p> <p>ビデオ鑑賞する目的を伝え,次の発表に生かせるように,めあてをもって鑑賞させる。</p> <p>観点《エ》観察ワークシート 楽器の響きや音の重なりを感じて聴く。</p>	リズムカード リズムドリル ビデオカメラ

9 本時の学習

(1) 本時の目標

拍の流れを感じ取り,各パートの特徴を生かした演奏の工夫をする。

(2) 授業仮説

導入の場において,楽譜を見て階名唱や演奏をすることにより,楽譜と音の関係を意識し,楽譜を理解して演奏することができるであろう。

パート練習の場において,課題を見つけて練習することにより,各パートの特徴を生かした演奏の工夫ができるであろう。

(3) 本時の展開

学習内容・活動	教師の指導・援助	評価の観点
1 「ハッピーチルドレン」を楽しく歌う。	・楽しい雰囲気の中でボディパーカッションを入れて歌わせる。	観点【ウ】 ・拍の流れを感じ取って,演奏している。 (演奏中の様子の観察)
2 階名早書きレースの曲を歌う。	・前時に行った階名ドリルの階名唱をして楽譜と音とを関連させる。	
3 今日のめあてを知る。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>それぞれのパートの役割を考え,特徴を生かした演奏の工夫をしよう。</p> </div>		

<p>4 パートナーでリコーダーと指差し階名唱を交互に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくできていないとこはどこかチェックする。 ・階名で歌ってリコーダーで確かめる。 <p>5 パートごとに分かれて、階名唱をする。</p> <p>6 各パートで、楽器での練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打楽器はリズム打ちで、つなぎの工夫をする。 <p>7 各パートの課題をチェックする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できていないところを楽譜でチェックして手直しの練習をする。 <p>8 全体で合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏を振り返ってチェックする。 <p>9 振り返りカードを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜と音を関連させて演奏させる。(MIDI 使用) ・パート練習でも、できないところを抜き出して階名で歌ったりし、練習の仕方を工夫することを促す。 ・リコーダーは大型楽譜を準備する。 ・練習のポイントを知らせる。 ・向き合って練習をし、楽譜を見て練習させる。 ・打楽器はリズム打ちでリズムを揃えてから楽器を使って練習させる。 ・リズムが課題なのか ・演奏技能なのか ・拍、長さが揃わないのか課題をはっきりさせる。 ・リズムに気をつけて縦の線を揃えて合奏することを促す。 ・次時の課題を見つけさせる。 	<p>観点【イ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートの役割を考え特徴を生かした演奏を工夫している。 <p>(発言や演奏態度の観察・振り返りカード)</p> <p>観点【ウ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じ取って、演奏している。 <p>(演奏中の様子の観察)</p>
---	--	--

(4) 資料



写真1 《1時で使用した大型楽譜》



写真2 《2時のC・Tリズムカードを見てね》



写真3 《2時C・T集中してリズム打ち》



写真4 《3時 楽譜を指差して聴く》

10 検証授業研究会

(1) 授業者の反省

階名が読めない児童が多い中、初めての器楽合奏で読譜指導に取り組むのが難しかった。

合奏の取り組みの指導と読譜指導が同時進行で大変であった。もっと早い時期に読譜指導をする必要性を感じた。

これまでは、楽譜が読めなくても合奏を楽しめる「お膳立て」のような支援をしてきた。しかし、今回の授業を通して、リコーダーを苦手としていた児童が、楽譜を読めるようになったことで、自信を持って活動に取り組む姿勢や意欲が見られたので、「わかる」「できる」につながる支援が必要。

楽譜が読めることで、「自分の力で練習する事ができる・楽譜上で具体的な課題を見つけることができる」など、表現活動の能力の向上にもつながったと感じた。

音符や休符、記号等の知識的な学習を、集中的に行ったため、学習への疲れが見えた。しかし、年間通して継続的に繰り返し学習することでしっかり身につくという、手ごたえを感じた。

新しい楽曲に出会うたびに、さりげなく読譜指導を行うと効果的である。ト音記号？何拍子？速さは？パートはいくつ ・ はついてない？同じふしはない？くりかえし記号は？など、最初でチェックする。

(2) 質問及び感想

学習の雰囲気がいい。わかる喜び、できる喜びから学ぶ楽しさと意欲がつくことが授業の中できちんと行われていた。

授業のルーラーや取り組み、学習に関することなどの掲示物がしっかりしている。

時間をうまく使って指導のテンポがよかった。

子どもたちがリズムカルに楽しそうに歌い、器楽学習でも学ぼうとする意欲、態度が良かった。

教師が子どもをほめる言葉や、「自分だけうまくなりたくない？みんなで上手になろうよ」という声かけで、お互いに高め合おうという雰囲気が、児童の態度に表れている。

Q. 音符や記号の学習が好きな児童も楽譜を見て演奏するのは苦手となっているがどういうことか

A. ピアノを習っている子や音楽部の子でも階名は読めるけど、リズムがわからないため、範唱・範奏を聴かないとできない。

Q. 今日の授業でパート練習は可能であったか。

A. 教室でのパート練習は、音が近すぎて無理があったため、パート練習から全体の練習へ切り替えた。器楽合奏における課題として今後、練習方法を工夫したい。

Q. 今日の評価の仕方はどのようにしたのか。

A. 主に観察で、座席表に記録をとっている。工夫したことを評価するのは難しいが、活動の観察や、発言、振り返りカードを基に評価をしている。

(4) 指導助言

子どもたちの情緒的な安定を感じた。音楽の授業が大好きということが伝わった。

今日の授業は地道な下積みが必要とする苦勞の多い、難しいところである。豊かな感性を育てる部分と知的な部分とのバランスが大切である。

今日の授業は演奏の仕方の工夫をする場であり、児童はちゃんと楽譜を追って演奏しており、それぞれの工夫も見られ目標は達成できていた。

楽譜が読める子と読めない子の差は、豊かな表現にその差がでていて、ちゃんと楽譜を見て自信をもって演奏していた。

指導計画がとても充実していて、とても良かった。

今回は進度の都合で理論研究を深めるところまで至らなかった。今回の授業を検証して、チャレンジタイムの年間計画やドリルの内容について研究をするともっと良い。実践を理論がサポートするのでもっと深めてほしい。

仮説の検証

1 具体仮説(1)の検証

導入の場において、チャレンジタイムを設け、ミニドリルやリズム習得学習などを継続的に繰り返し指導することにより、読譜の能力が高まるであろう。

- ・検証授業前、授業後のアンケートや、階名テストの結果、及び児童の感想をもとに仮説の検証を行う。
- ・アンケート実施日： 事前：11月7日(34人) 事後：12月20日(31人)
- ・階名テスト実施日： 1回目 6月6日(31人) 2回目 11月7日(34人) 3回目 12月20日(31人)

(図16)「自分で階名が書けるか」の問いに、事前は「書けない」と答えた児童が32%(11人)いたが、事後は0%(0人)となり、全員が「書けた」と答えている。実際に書けるようになったかを、(図17)階名テストの結果でしてみる。8割以上階名を書くことができた児童は、6月では45%(14人)、11月では41%(14人)であったのに対し、12月のテストでは93%(29人)の児童が自分の力で階名を書くことができた。この結果は(図16)の児童の主観によるアンケートの結果とほぼ一致しており、ほとんどの児童が階名を理解できていることがわかる。

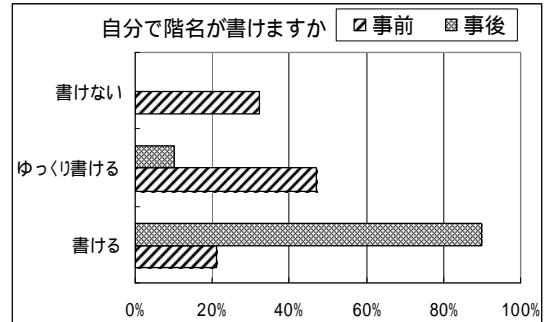


図16 自分で階名が書けますか

(図18)は、検証授業後の児童の感想である。この児童はリコーダーが苦手で楽譜が読めなかったが、ミニドリルやリズム唱を継続的に取り組んだ結果、リズムや楽譜がわかるようになった。また、自分で楽譜を見てリコーダーを演奏することができるようになり、楽譜を理解する学習が楽しくなっている様子が伺える。

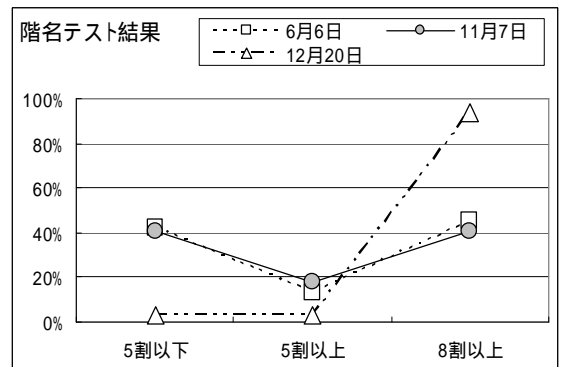


図17 階名テスト結果

(図19)「繰り返し記号の理解」については、事前では70%(24人)が「わかる」と答えていた。「わからない」と答えた児童のほとんどが、「1番かっこ」「2番かっこ」が理解できていないという理由であった。チャレンジドリルで学習した後の12月では93%(29人)の児童が「わかる」と答え、繰り返し記号を理解することができたと考えられる。(図20)「リズムの理解」については、事前ではリズムを認識できていない児童が88%(30人)いたが、事後はリズムを認識することができた児童が77%(26人)と逆転の結果がでている。これは、普段からポディーパーカッションを楽しんだり、リズムにのって歌ったりするなど、もともと体で感じていたリズムを、リズム打ちやリズム唱、リズム当てっこドリルをすることにより、楽譜と音の一致ができたということが考えられる。

これまで、リコーダーや器楽合奏を通して、楽譜の学習をしてきました。楽譜に慣れて合奏ができましたか。
 之、か月前勉強してリズムや楽譜などもよく分かってきた。
 夏休みに、リコーダーをいよいよ勉強して、ふけるようになったので、とってもうれしかった。

図18 児童の感想

これらのことから、チャレンジタイムのミニドリルやリズム習得学習が、読譜の能力を高めるのに効果があったと考えられる。

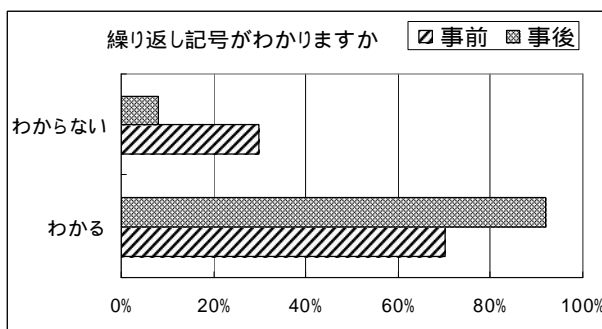


図19 繰り返し記号がわかりますか

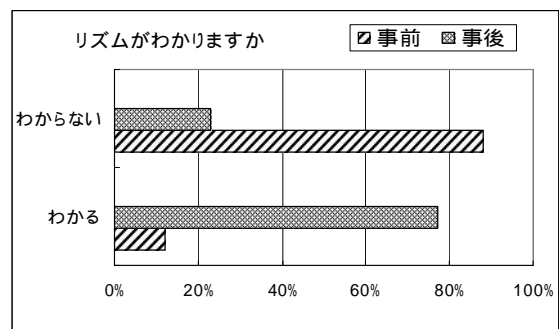


図20 リズムがわかりますか

2 具体仮説(2)の検証

展開の場において、大型楽譜などの教材・教具を活用し学習展開の工夫を図ることにより、主体的に音楽活動に参加することができ、音楽活動の基礎的な能力が培われるであろう。

まず、児童の感想から、教材・教具がどのように活用されたかを検証する。

(図21)の児童は、五線と音符の関係を理解していなかったが、指五線ミソシレファカード(P50 図9参照)を使うことにより、五線と音符の関係を理解することができ、主体的に音楽活動に参加している様子が見える。

(図22)の児童は合奏で低音のパートを担当した児童である。バスキーボードでド「ハ」の位置を把握することができなかったが、鍵盤練習カード(P50 図10参照)で、ヘ音譜表で記された音を確認することで、初めての低音パートをキーボードで演奏することができた。

(図23)では「楽譜を見て歌うことができるか」の問いに、事前では「できない」と答えた児童が23%(8人)いたが、事後は、「できない」と答えた児童は0%(0人)であった。(図24)は、「楽譜を見て楽器を演奏することができるか」という問いに、事前では「できない」と答えた児童が65%(22人)もいたが、事後には「できない」と答えた児童は7%(2人)にも減少している。

これらのことから、これまでは階名や歌詞だけを見て演奏していたのが、楽譜全体を見て、音高や、リズム、記号等も意識して楽譜を見るようになっていいると考えられる。

(図25)「音符や休符、記号等の学習は好きか」の問いに、事前では、「あまり好きじゃない」「きらい」と答えた児童が47%(16人)もいたが、事後では、「きらい」0%(0人)あまり好きじゃないが7%(2人)と、ほとんどの児童が、意欲的に学習に参加していることがわかる。

これらの結果から、教材・教具を活用し、「わかる」「できる」ための支援をすることにより、児童が主体的・意欲的に音楽活動に参加することができたのではないかと考える。

また、「わかる」ようになったことで、演奏への意欲も高まり、読譜の能力や演奏技能の向上がみられ、音楽活動の基礎的な能力が培われてきたのではないかと考える。

これまで、リコーダーや器楽合奏を通して、楽譜の学習をしてきました。楽譜に慣れて合奏ができましたか。

ミソシレファ、ファドミを使って音符を書けたのが良かった。キリマンジャロではみんなの息が合っていたのもう少し練習すればカンキになると思います

図21 児童の感想

これまで、リコーダーや器楽合奏を通して、楽譜の学習をしてきました。楽譜に慣れて合奏ができましたか。

2ヶ月間音の認識を強めて、キーボードは初めてだけれど、このようにたしかに名前が早く書けるようになったし、とても勉強になりました。

図22 児童の感想

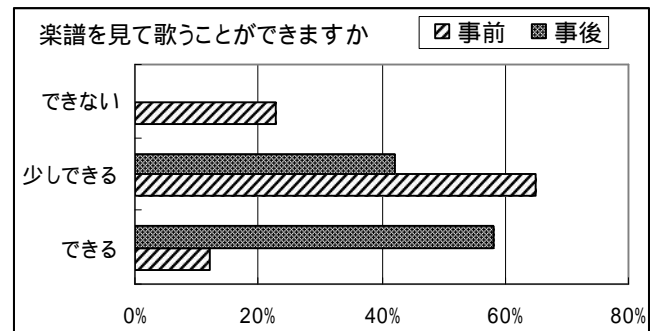


図23 楽譜を見て歌うことができますか

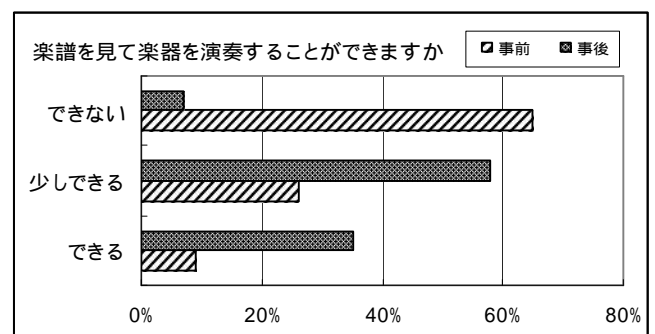


図24 楽譜を見て演奏することができますか

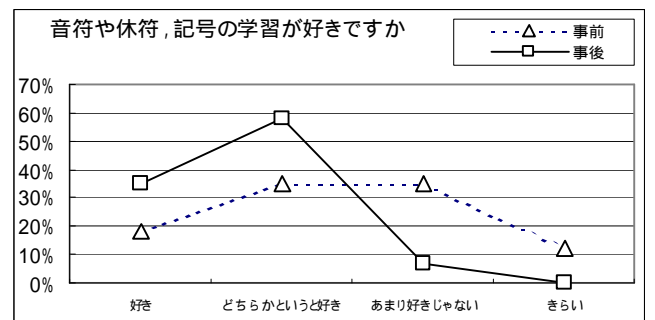


図25 音符や休符の学習は好きですか

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 階名を理解できなかった児童が、理解できただけでなく演奏の技能も高まり、主体的・意欲的に音楽活動に参加することができた。
- (2) 読譜に関する児童の実態把握ができ 教材・教具の活用や支援のあり方など 指導の手立てが見えた。
- (3) 視唱・視奏において 楽譜を指差し階名唱することにより楽譜と音の流れを意識させることができた。
- (4) 楽譜に関する知識・理解の学習は、楽しい表現活動を通して指導することで、効果が上がることがわかった。
- (5) 読譜に関する指導内容を明確にし、年間計画に位置づけることができた。
- (6) 3 学年から 6 学年まで、どの教材でも指導内容に応じて、いつでも使えるチャレンジドリルを作成することができた。

2 今後の課題

- (1) 楽譜を理解する学習が先行してしまうと、児童が飽きて疲れてしまった。取り立てて知識・理解の学習をするのではなく、日ごろからごく自然に学習できるような学習展開の工夫が必要。
- (2) 音符や休符、記号に関する学習は、中学年から高学年へと系統立てた指導が必要である。
- (3) 今回は、表現に視点を置いたが今後は、表現と鑑賞の関連を図る指導の工夫が必要である。
- (4) 表現領域の音楽づくりに発展させる指導の工夫が必要である。

3 終わりに

10 月からの半年間、落ち着いた環境の中で自分の研究を進めることができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。本研究では、あらゆる角度から、これまでの自分の実践を振り返り、教材・教具の効果的な活用法や音楽科の基礎的な能力を培う指導法について研究を深めてまいりました。

長年、私の課題としていた楽譜を読む力について、児童の実態を把握し、支援のあり方を研究することができ、私にとって大きな財産になりました。ここでの研究を 4 月からの教育実践に生かしていきたいと思えます。

本研究を進めるにあたって、ご指導を下さいました沖縄県立総合教育センター研究主事の吉川陽子先生、当研究所所長の長崎光義先生、指導主事の上原等先生、研究所の職員の皆様に深く感謝申し上げます。

また、研究の機会を与您て下さいました嘉数小学校校長の佐久川紀成先生、ならびにいろいろご協力下さいました嘉数小学校の職員、そして、同期研究員の石嶺晋先生、仲地あやの先生に深く感謝申し上げます。

<主な引用文献と参考文献>

- ・ 文部省『小学校学習指導要領 解説 音楽編』1999
- ・ 川池 聡 著 『学習指導要領早わかり解説 小学校音楽科授業の基本用語辞典』 明治図書 2000
- ・ 川池 聡 著 『小学校・中学校 新しい音楽科の指導と評価』教育芸術社、2003
- ・ 金本正武 編著 『小学校音楽科基礎・基本と学習指導の実際』東洋館、2002
- ・ 金本正武/高須一 編著『小学校音楽科の授業づくり』 明治図書、2005
- ・ 宮野モモ子 編著 『新学習指導要領Q & A』教育出版、2002
- ・ 川邊智子 著 『学力の資質向上をめざす音楽科 授業の創造』明治図書、2005
- ・ 吉富功修 編著 『音楽科重要用語 300 の基礎知識』明治図書、2001
- ・ 山本文茂 監修 『セレーノ CD-ROM 版音楽科教育実践講座』ニチブン、2004
- ・ 東山清一 著 『「読譜力」伝統的な「移動ド」教育システムに学ぶ』春秋社、2005
- ・ 東山清一/海老澤 敏 編著『「よい音楽家とは」読譜指導の理論と実践』音楽友の社、1997
- ・ 八木正一/池田康子 編著『「音楽活動の基礎」の授業 50 のネタ』学事出版、2001
- ・ 八木正一 著 『新しい発想でつくるラクラク音楽授業・教材』 学事出版 1999
- ・ 熊木眞見子/中島 寿/高倉弘光 共著 『子どもの豊かさに培う共生・共創の学び』東洋館出版社、2004
- ・ 熊木眞見子/中島 寿/高倉弘光 共著 『音楽科 活動バンク』不昧堂出版、2005
- ・ 佐野 靖 編著 『小学校音楽教育実践指導全集』アカデミープロモーション、2002
- ・ 岡部博司 編著 『新訂 標準音楽辞典』 音楽友の社、1966